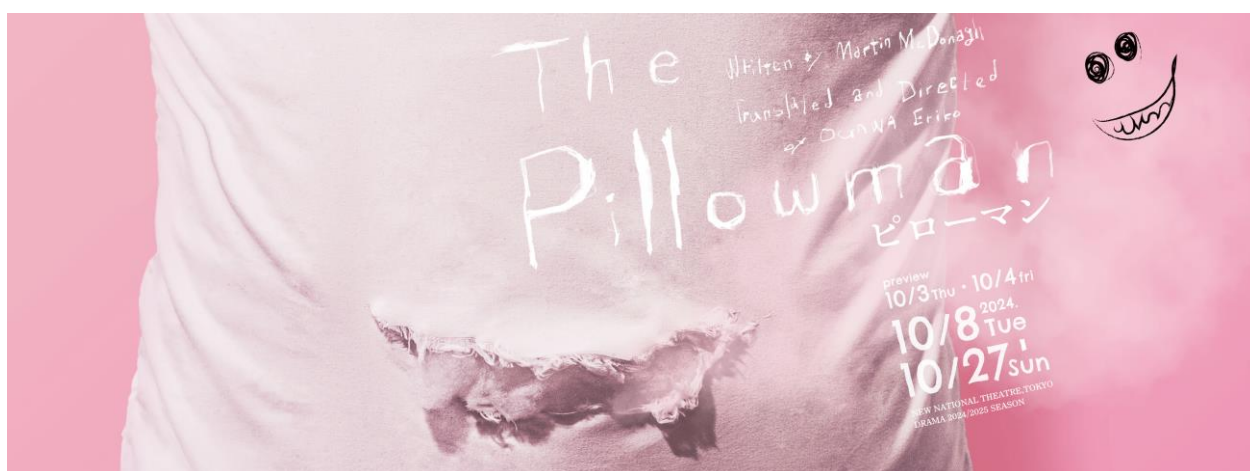


# PRESS RELEASE

新国立劇場 2024/2025シーズン 演劇

## ピローマン

成河×亀田佳明『タージマハルの衛兵』の名タッグ再び！  
新シーズンの幕開きは、  
残酷なおとぎ話が現実へと忍び寄る—マーティン・マクドナーの傑作



成河



亀田佳明



斉藤直樹



松田慎也



大滝 寛



那須佐代子



翻訳・演出  
小川絵梨子

プレビュー公演:2024年10月3日(木)・4日(金)

2024年10月8日(火)～27日(日) 新国立劇場 小劇場

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita\_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1

 新国立劇場  
NEW  
NATIONAL  
THEATRE  
TOKYO

## 小川絵梨子が10年以上の時を経て『ピローマン』に再び挑む！ 成河、亀田佳明ら信頼を寄せるキャストと共に贈る、 物語が存在することの意味を問いかける“物語のための物語”

映画「スリー・ビルボード」「イニシエリン島の精霊」など、新作が公開されるたびにアカデミー賞を賑わせる、イギリス出身の鬼才、マーティン・マクドナー。劇作家としてキャリアをスタートさせ、演劇界・映画界の2つのジャンルで活躍する彼の代表作の一つがこの『ピローマン』です。

架空の“独裁国家”で生活している兄と弟。作家である弟が書いたおとぎ話がやがて彼らの現実を侵食していく…。理不尽な体制の中で「物語」が存在する意義とは何かを問いかける作品です。

新国立劇場 2024/2025 シーズンのオープニングは、2004年のローレンス・オリヴィエ賞、04-05年のニューヨーク演劇批評家協会賞を受賞した、このマクドナーの傑作を、新国立劇場演劇芸術監督の小川絵梨子の翻訳・演出で上演します。

今回の上演に至った発端はコロナ禍。小川が縁のある俳優たちに声をかけ、それぞれが読みたい戯曲を持ち寄り、オンラインで読み合わせの会を行っており、その中の1つに『ピローマン』があったといいます。

小川は、コロナ禍では、演劇を含めた芸術文化全般が社会や人とどう繋がっているのかということを強く意識させられたと振り返ります。そしてそのパンデミックを経て、この『ピローマン』という戯曲には「物語が存在することの意味や意義とは何か」という問いが色濃く内包していると改めて感じたといいます。

小川は、2013年に同作を演出しましたが、コロナ禍での気づきを経て、今回の上演ではコンセプトなどを一新。なぜ物語が必要なのか、そして物語が存在する意義に重きを置き、同作に再び挑みます。

今回の上演にあたり、小川が信頼を寄せるキャスト6名が揃いました。

弟の作家カトゥリアンを成河、その兄ミハエルに亀田佳明。2019年上演の二人芝居『タージマハルの衛兵』で初共演にも関わらず、息の合ったコンビネーションを見せた二人が、再び小川のもとに集結します。

ほか、兄弟を尋問する二人の刑事、トゥポルスキを斉藤直樹、アリエルに松田慎也。そして兄弟の父母を大滝寛と那須佐代子が担います。

暴力や凄惨な描写の中に共存するユーモア…マクドナーらしさがふんだんに詰まった本作は、観客のみならず、物語の語り手であるクリエイターたちをも魅了してきました。2003年のイギリスでの初演から20年以上経ちましたが、コロナ禍という未曾有の事態を経た「今」だからこそ、私たちに強く響く、この“物語のための物語”にどうぞご期待下さい。

## あらすじ

——むかしむかし、ある所に普通の人とはちよつと違う人がいました。  
身長は3メートルぐらいで、体は、ピンク色のふわふわした枕でできていました。

作家のカトゥリアン(成河)はある日、「ある事件」の容疑者として警察に連行されるが、彼にはまったく身に覚えがない。二人の刑事トウポルスキ(斉藤直樹)とアリエル(松田慎也)は、その事件の内容とカトゥリアンが書いた作品の内容が酷似していることから、カトゥリアンの犯行を疑っていた。刑事たちはカトゥリアンの愛する兄ミハエル(亀田佳明)も密かに隣の取調室に連行しており、兄を人質にしてカトゥリアンに自白を迫る。カトゥリアンが無罪を主張する中、ミハエルが犯行を自白してしまう。自白の強要だと疑うカトゥリアンは兄に真相を問いたですが、それはやがて兄弟の凄惨な過去を明らかにしていく……。

## 翻訳・演出 小川絵梨子からのメッセージ

本作品は、マーティン・マクドナーの傑作の一つであり、今なお世界中で愛され続けている作品でもあります。本作は、架空の国を舞台としており、警察に尋問を受ける作家とその兄を中心に物語が展開していきます。作家が書くのは、毒々しい御伽噺のような、ファンタジーの皮をかぶった悪夢のような物語であり、それが舞台上でも展開されていきます。やがて作家とその兄の凄惨な過去が暴かれていくにつれ、作家の描く禍々しい童話の世界は、現実世界へと侵食していき、そして痛ましく恐ろしい事件に繋がっていきます。本作は、ダークコメディの一面を持ちつつ、理不尽な世界の中で、物語という存在が如何なる存在意義を持ち得るかを問いかけます。人類が発明した「物語」が持つ底力と、絶望の中でも繋いでいくべき希望の糸を描き出す物語となっています。

## スタッフプロフィール

### 【作】 マーティン・マクドナー Martin McDONAGH

イギリス・ロンドン出身の劇作家、映画監督。

1970年ロンドンで生まれ、育つ。幼少期、アイルランド出身の両親の影響でアイルランドの土地・文化・言語に触れる。学校を中退し定職に就かずに創作を続け、戯曲の草稿が劇場関係者の目に留まり劇作家として活動が始まる。デビュー作『ビューティーQueen・オブ・リーナン』(96年)で、ローレンス・オリヴィエ賞・作品賞にノミネート、一躍注目を浴びる。アイルランド西部の村を舞台としたこの作品は、その後上演された『コネマラの骸骨』『ロンサム・ウェスト』(97年)と併せて「リーナン三部作」と呼ばれる。一方、『イニシマン島のピリー』(96年)や『ウィー・トーマス』(01年)も同地域の島を舞台とし「アラン諸島三部作」の作品として知られる。その後、『ピローマン』(03年)でローレンス・オリヴィエ賞・最優秀新作演劇賞を受賞。『スポケーンの左手』(10年)、『ハングメン』(15年)、『A Very Very Very Dark Matter』(18年)と新作が上演されている。

また、映画監督・脚本でも高い評価を受けている。初監督の短編映画「シックス・シューター」(04年)で、アカデミー賞短編実写映画賞を受賞。初長編監督作「ヒットマンズ・レクイエム」(08年)、「セブン・サイコパス」(12年)、「スリー・ビルボード」(17年)ではアカデミー賞・作品賞と脚本賞にノミネート、ゴールデングローブ賞を受賞。「イニシマン島の精霊」(22年)ではアカデミー賞9部門にノミネート、ゴールデングローブ賞を受賞。

### 【翻訳・演出】 小川絵梨子 OGAWA Eriko

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に『ART』『おやすみ、お母さん』『管理人／THE CARETAKER』『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『死と乙女』『熱帯樹』『出口なし』『FUN HOME』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『RED』など。新国立劇場では『デカローグ』ACE、『レオポルトシュタット』『アンチポデス』『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首-幻に長崎を想う曲-』『星ノ数ホド』『OPUS／作品』の演出のほか、『東京ローズ』『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手掛けた。



## 出演者プロフィール



### 成河 Songha

### カトウリアン

大学時代に演劇を始め、北区つかこうへい劇団などを経て舞台を中心に活動。平成20年度文化庁芸術祭演劇部門新人賞、『BLUE/ORANGE』『春琴』にて第18回読売演劇大賞優秀男優賞、『EDGES-エッジズ-2022』『建築家とアッシリア皇帝』にて第57回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

【主な舞台】『未来少年コナン』『テラヤマキャバレー』『ねじまき鳥クロニクル』『桜の園』『ある馬の物語』『ラビット・ホール』『桜姫東文章』『建築家とアッシリア皇帝』『COLOR』『検察側の証人』『スリル・ミー』『子午線の祀り』『エリザベート』『フリー・コミティッド』『スポケーンの左手』など。新国立劇場では『タージマハルの衛兵』『アジア温泉』『サロメ』『夏の夜の夢』に出演。



### 亀田佳明 KAMEDA Yoshiaki

### ミハエル

文学座所属。劇団公演『モンテ・クリスト伯』にて初舞台以降、舞台を中心に活動。これまでの主な出演に映画『検察側の罪人』、連続テレビ小説『らんまん』など。『タージマハルの衛兵』『ガラスの動物園』にて第54回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

【主な舞台】『パートタイマー・秋子』『プレイキング・ザ・コード』『ライカムで待って』『ダウト～疑いについての寓話』『森 フォレ』『ピサロ』『岸 リトラル』など。新国立劇場では『デカログ1～10』ABCDE、『尺には尺を』『終わりよければすべてよし』『アンチポデス』『リチャード二世』『タージマハルの衛兵』『ヘンリー五世』『マリアの首～幻に長崎を想う曲～』『ヘンリー四世』『三文オペラ』『るつぽ』に出演。



### 斉藤直樹 SAITO Naoki

### トウポルスキ

上智大学外国語学部英語学科卒。在学中にダンスサークルに参加。マイアミ大学劇場美術学科への交換留学から帰国後、安室奈美恵、TRFなどのバックダンサーを経て、舞台を中心に活動。2023年『くまのがっこう音楽劇』では演出を担当。

【主な舞台】『エミリア・ガロッチィ／折薔薇』『検察側の証人』『FORTUNE』『終夜』『WILD』『いま、ここにある武器』『アドルフに告ぐ』『ユビウ王』『6週間のダンスレッスン』『帰郷-The Homecoming』『ピロマン』『炎の人』『クラウディアからの手紙』『Angels in America』『BENT』『ボーズ・タイム』など。新国立劇場では『デカログ』C、『アンチポデス』『マリアの首～幻に長崎を想う曲～』『サロメ』、こつこつプロジェクト『スペインの戯曲』に出演。



### 松田慎也 MATSUDA Shinya

### アリエル

2009年、蜷川幸雄率いる演劇集団さいたまネクスト・シアター『真田風雲録』で初舞台を踏み、2021年の最終公演まで同集団に在籍。これまでの主な出演に映画『ヘルドッグス』、ドラマ『ドクターX～外科医・大門未知子～』などがある。

【主な舞台】『ハリー・ポッターと呪いの子』『雨花のけもの』『男たちの中で』『朝のライラック』『第三世代』『髑髏城の七人～Season 風』『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』『ビニールの城』『尺には尺を』『リチャード二世』『青い種子は太陽のなかにある』『ハムレット』『海辺のカフカ』など。



### 大滝 寛 OTAKI Hiroshi

### 父

文学座所属。1983年『シラノ・ド・ベルジュラック』で初舞台。これまでの主な出演に、ドラマ『仮想儀礼』、大河ドラマ『青天を衝け』、連続テレビ小説『ちむどんどん』、映画『ビブリア古書堂の事件手帖』『凶悪』、海外作品の吹き替えに映画『グリーンブック』『ヘイトフル・エイト』『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』『アルマゲドン』、海外ドラマ『冬のソナタ』『ダメージ』などがある。

【主な舞台】『シングルファザーになりました。』『磁界』『欲望という名の電車』『雪やこんこん』『検察側の証人』『酔鯨云々』『寒花』『かのような私～或いは斎藤平の一生～』『女の一生』『冒した者』など。新国立劇場では『デカログ』D、『リチャード二世』『花咲く港』『夏の夜の夢』に出演。





## 那須佐代子 NASU Sayoko

母

1989年から2013年まで劇団青年座に在籍し、退団後も舞台を中心に活躍。シアター風姿花伝支配人も務め、『おやすみ、お母さん』『ダウト～疑いについての寓話』『ミセス・クライン』『終夜』『THE BEAUTY QUEEN OF LEENANE』などのプロデュース公演も手掛ける。『THAT FACE～その顔』『リチャード三世』で第47回紀伊國屋演劇賞個人賞、『リチャード二世』『ミセス・クライン』で第28回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞。

【主な舞台】『GOOD-善き人-』『スローターハウス』『ザ・ウェルキン』『三十郎大活劇』『検察側の証人』『Oslo(オスロ)』『アルトゥロ・ウイの興隆』『チック』『まさに世界の終わり』など。新国立劇場では『尺には尺を』『終わりよければすべてよし』『エンジェルス・イン・アメリカ』『レオポルトシュタット』『キネマの天地』『リチャード二世』『ヘンリー五世』『ヘンリー四世』『長い墓標の列』『リチャード三世』『ヘンリー六世』『オットーと呼ばれる日本人』『浮標』に出演。

## 公演概要

### 【タイトル】 ピローマン

作：マーティン・マクドナー  
翻訳・演出：小川絵梨子

美術：小倉奈穂  
照明：松本大介  
音響：加藤 温  
衣裳：前田文子  
ヘアメイク：高村マドカ  
演出助手：渡邊千穂  
舞台監督：下柳田龍太郎

主催：新国立劇場

【キャスト】 成河、亀田佳明、斉藤直樹、松田慎也、大滝 寛、那須佐代子

【会場】 新国立劇場 小劇場

### 【公演日程】

2024年10月8日(火)～27日(日)

プレビュー公演：2024年10月3日(木)・4日(金)

※開場は開演の30分前です。

### 【料金(税込)】

A席 7,700円／B席 3,300円／Z席(当日)1,650円

プレビュー公演：A席 5,500円／B席 2,200円／Z席(当日)1,650円

＜お得なセット券のご案内＞  
2024/2025 シーズン演劇 開幕3作品通し券  
『ピローマン』『テーバイ』A席、『白衛軍』S席のセット

料金(税込) 21,700 円  
お申込先：新国立劇場ボックスオフィス  
(電話と窓口のみ)

【一般発売】2024年8月10日(土)10:00～

### 【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

- \* **Z席1,650円** Z席(各日12席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。
- \* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。
- \* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5~10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【新国立シアタートーク】  
 日時:10月18日(金)終演後  
 出演:全キャスト  
 司会:中井美穂

入場方法:本公演チケット(いずれの日程でも可)をご提示ください。

**ご観劇前にご確認ください<トリガーアラート>**

本作には、フラッシュバックに繋がる／ショックを受ける懸念のある場面・表現が含まれます。

児童虐待、性的虐待、暴力、殺人、流血、銃声、差別的な表現

**目や耳に障がいのあるお客様への観劇サポート**

本公演では視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへ、観劇サポートをご提供いたします。

※サポートは無料。要予約、定員あり。

|                                   |                      |
|-----------------------------------|----------------------|
| 視覚障がいの方への<br>開演前舞台説明会&リアルタイム音声ガイド | ① 10月19日(土) 13:00 開演 |
|                                   | ② 10月21日(月) 14:00 開演 |
|                                   | ③ 10月23日(水) 14:00 開演 |
| 聴覚障がいの方への<br>ポータブル字幕機の貸し出し        | ① 10月20日(日) 13:00 開演 |
|                                   | ② 10月23日(水) 14:00 開演 |



劇場前の表示



受付には、手話通訳者と要約筆記者も



開演前舞台説明会の様子



舞台模型に触って、形状を体感している様子